

令和元年度 第1回 松江市総合教育会議 会議録

日 時：令和元年 10 月 15 日（水）9：15～11：40

場 所：松江市立大庭小学校 会議室

出席者：松江市長 松浦正敬
松江市教育長 清水伸夫
松江市教育委員 伊藤由紀夫、多々納道子、藤原文、金津式彦
学校関係者 (大庭小学校) 校長 梶田勝造、学力向上支援講師 米津はるひ、
教諭 水凌美保子、学校図書館司書 門脇久美子
(美保関小学校) 校長 松尾隆、学力向上支援講師 吉田洋子
(竹矢小学校) 校長 永井孝夫、学力向上支援講師 青木勸
(意東小学校) 教諭 安達和彦、学力向上支援講師 立石真理子
(湖南中学校) 校長 原俊行、学力向上支援講師 奥村泰磨
市長部局 政策部長 藤原亮彦、政策部次長 高木博、政策企画課政策係長
井原崇博
教育委員会事務局 副教育長 早弓康雄、副教育長 大谷淳司、教育委員会次長 杉谷薫、
学校教育課長 三賀森卓司、学校教育課指導研修係長 川上淳一、
教育総務課長補佐 玉木一男、教育総務課副主任 井川葉月

○（事務局）三賀森 学校教育課長

定刻になりましたので、始めさせていただきます。

皆様には大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。これより令和元年度第1回松江市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、最初に松浦市長より御挨拶申し上げます。

○松浦市長

皆さん、おはようございます。今年度第1回の総合教育会議ということでございます。

法律が変わりまして、市長部局と教育委員会との意思疎通を図ることとなり、これはお互いに関連する仕事・事業というのがたくさんあるわけでございますけれども、これまで教育委員会というのはかなり独立性が強くて、なかなか市長部局との意思疎通ができにくかったこともあろうかと思いますが、この総合教育会議を通して、お互いのいろいろな今の課題、あるいはこれからやろうとしていることについて連携を図ってこうという趣旨でございますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

今、子どもは地方創生、いわゆる人口減少対策ということなのですが、これを市政の最重要課題ということで取り組んでおります。

その中でも、やはり人財育成ということが非常に大事だと思っております。今、世界的にもそうなのですが、いろいろな意味で持続可能な社会をつくっていくことが求められております。人口減少時代にあつては、大変なおさらなことだというように思います。人財につきましても、私は地産地消だと言っておりますが、地元で育てて、そして、その人たちが地元のために働いてくれる。そして、また新たな人財をつくり出していくというような循環をつくり出していかなければいけない。

これまでは、どちらかと言いますと、育て上げた子供たちがどんどん外に出ていってしまうというようなことでございましたけれども、いかに人財を循環させていくかということが非常に大事なことだと思っております。

学力と同時に、やはりふるさと教育ということにつきましても、力を入れてやっていかなければいけないというように思っているところです。ふるさと教育というと、何かふるさとの良いところを勉強して、こちらに留まってもらおうというような考え方に陥りがちです。私は、そういうものももちろん必要なのですが、やはり子供たちが世の中をどう生きていくかということ、これからはそうした価値観というものも変わっていく必要があるというように思っております。

地方は地方で、大変良い環境があるわけでございます。そのような中で、どのように人生を生きていくかということについて、やはり子供なりに考えてもらうということが、ふるさと教育の根本ではないかというように思っているところでございます。

今日はそういうことで学校の授業等を見させていただいて、そして現場の皆様方のいろいろな悩みだとか、そのようなこともお聞かせをいただきながら、良い時間を過ごさせていただきたいというように思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

ありがとうございました。

それでは、レジュメを御覧ください。本日のスケジュールについて御案内します。

松江市では、子供たちの学力育成を目指し、合計 12 名の学力向上支援員と学力向上支援講師を配置しております。また、全ての学校の図書館に司書を配置しています。

先ほど申しました学力向上支援員というのは、主に担任を補佐しまして、子供たちを支援していくというのが仕事です。

一方、学力向上支援講師というのは、担任の代わりに中心となって授業をすることができます。また、習熟度別に分けて子供たちを見たり、均等に分けて少人数で見たり、子供たちを取り出して個人的に教えたりすることができるという、いわゆる T1 といわれる、中心となって授業をすることができる者が学力向上支援講師です。

また、学校図書館司書と申しますのは、資料提供を中心とした担任への授業支援をしたり、読書活動を推進したりすることが主な仕事になっております。

本日は、その中の学力向上支援講師による授業と、学校図書館司書を活用した授業というものを皆さんに参観していただきたいと思っています。

まず、2 時間目がスタートします 9 時 35 分から、6 年 3 組の子供たちによります算数の授業を御覧いただきたいと思います。これは担任と学力向上支援講師による習熟度別の授業です。

コースを 2 つに分けておりまして、6 年 3 組の教室におきましては、担任の三島麻美先生が授業をされます。「問題をたくさん解いて解き方を身に付ける」コースといいまして、基礎や基本、その繰り返しを中心とした授業を提供してまいります。これが 4 階の 6 年 3 組の教室です。

また、習熟度別でいうと発展的な授業を、学力向上支援講師の米津はるひ先生が、3 階にあります少人数学習室で授業を行います。「自分たちで話し合っって問題の解き方を考える」コースとなっております。その 2 つの習熟度別の授業を御覧いただきたいと思っています。

続きまして、今度は少人数学習室と同じ 3 階の部屋となりますが、学校図書館を活用した取組について、3 年 3 組による総合的な学習の授業を御覧いただきたいと思っています。担任であり、また、司書教諭である水凌美保子先生、併せて、学校図書館

司書の門脇久美子先生による授業です。

2時間目が終わる10時20分までのところで各授業の様子を御覧いただき、その後、この会議室に戻っていただきまして、事務局説明並びに意見交換に移らせていただきたいと思います。

参観につきましては、2時間目に3つの各教室で行いますが、自分の見たいところに時間をかけて見ていただき、行きたい順番でどうぞ御覧ください。市長と教育委員の皆様につきましては、私が御案内したいと思いますので、一緒をお願いします。

なお、金津教育委員におかれましては、所用により、視察が終了された後に御退席されますので、そのことを御了承くださいませ。

今、時間が9時30分前です。9時35分から授業が始まります。ここを出て右手に階段がありますが、この場所は2階です。4階のちょうどこの真上辺りが6年3組の教室になっております。3階の真向かいのところに図書館がありまして、その左側に少人数学習室がございます。始まるまで5分ありますが、どうぞ移動をしながら参観をしていただきたいと思います。

それでは、よろしく申し上げます。

.....授業視察.....

○（事務局）三賀森 学校教育課長

皆さん、御視察いただきありがとうございました。

続きまして、事務局の説明並びに協議に入らせていただきたいと思います。

まず、事務局から「学校図書館活用教育の取組」及び「学力向上支援講師の取組」について説明させていただきます。その後に質疑応答を含めた意見交換に入りたいと思います。このあとは自席からの進行になります。どうぞお許してください。よろしく申し上げます。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

失礼します。学校教育課指導研修係長の川上です。私のほうから、「学校図書館活用教育」と『夢☆未来』学力向上対策事業、それから「今後の取組」について御説明申し上げます。

まず、緑色の表紙の「資料 1」、こちらの 2 ページを御覧ください。

こちらの 3 名の先生方は、学校図書館活用教育の専門分野で御活躍をされ、全国でも多くの都市で講演会や勉強会にお出かけになられ、松江市にも深く関わっていただいている先生方です。

その先生方が、全国の講演会で「学校図書館活用の先進地は松江市です」と聴衆に向けて話され、毎年、松江市には全国から年間 15 回程度の行政視察が入ります。

では、なぜ松江市が学校図書館活用の先進地なのか。3 ページを御覧ください。新学習指導要領が、来年度から小学校、再来年度には中学校で全面実施となります。新しい学習指導要領では、未来を生きる子供たちに必要な力、先の見えない事象にも対応できる力が求められています。その力を身に付けるためには、探究的な学習を進めていく必要があり、その大きな役割を担っているのが学校図書館活用教育です。

松江市では、学校図書館活用教育に力を入れ、その取組が評価され、全国から先進地として選ばれています。

では、具体的な取組について説明します。4 ページを御覧ください。松江市では、小・中・義務教育学校 49 校の全ての学校図書館に学校司書を配置しています。読書センター、学習センター、情報センターの 3 つのセンター機能の充実を図り、人のいる温かい学校図書館を目指して、学校司書は日々業務にあたっています。

下の表を御覧ください。県内でも松江市は、より勤務時間が長い学校司書 B、A-2 を配置し、図書館を活用した授業の打合せなど、先生方と連携が図れる体制をとっています。

次に、5 ページを御覧ください。松江市は小中一貫教育の視点で、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの 9 年間の中で、探究的な学習をどのように進めていけば良いのか一目で分かるように、「学び方指導體系表」を全国に先駆けて作成しました。大変文字が小さくなっております。この「学び方指導體系表」につきましては、資料 1 の最後に拡大したものを付けております。そちらを御覧いただければと思っております。

私も中学校に勤務をしておりましたけれども、正直なところ、小学校でどのようなことを学習するのか、大まかなことは分かっていますが、具体的に「こういう活動をする」というところまではよく分かっておりませんでした。ですが、この体系表を見れば、いつ、どこで、どういうことを子供たちが学習するのが一目で分かります。この体系表を活用することで 9 年間を見通して、より発展的な学習に取り組むことがで

きます。

次に、6 ページを御覧ください。学校図書館全 49 館に 49 名の学校司書が勤務していますが、初めて勤務される方から、勤務年数が 20 年近いベテランの方までおられます。毎年、勤務年数の短い学校司書対象の研修から、中学校区ごとのブロック別研修、管理職も含めた全体研修など、学校図書館研修会を開催し、学校司書の資質向上と学校図書館活用教育の推進に取り組んでいます。

また、7 ページには、物流システムの流れを記載しています。学校図書館には、授業資料として必要な蔵書がどうしても限られてしまい、「授業に必要な資料が自校にない」、また、「グループに 1 冊渡したい。でも、数が足りない」ということがあります。そういうときに学校間、また、市立図書館と学校をつなぎ、民間宅配業者を使って資料のやり取りができるシステムが構築されています。

学校においても、学校図書館がこれからの教育に重要な役割を担っているということを理解していただき、8 ページにありますように、学校図書館活用教育に力を入れていただいております。

表にありますように、11 学級以下の学校における司書教諭、授業者と学校図書館、学校司書をつなぐ重要な役割を受け持つ司書教諭ですけれども、その発令率が全国では 30%前後という中、松江市では 100%と、全ての学校に司書教諭が発令されています。加えて、小学校では、1 校に 2 名以上の司書教諭の発令を行っている学校もあり、学校全体で図書館を活用した授業が取り組みやすい環境を整えておられます。

こうした学校図書館活用教育の成果が 9 ページ、全国学力・学習状況調査結果にも現れてきています。小学校では国語 B、発展問題になりますが、その平均正答率が全国平均値を上回り、その差を年々広げていっています。

また、10 ページを開いていただきますと、図書館を活用した授業の割合、こちらも県はもちろんですが、全国平均値を大きく上回っております。当然、探究的な学習も、11 ページにあるように、全国平均値を上回る状況が小中ともに続いています。こうした取組が、子供たちのこれからの社会の中で生きる力の育成につながっているところです。

続きまして、『夢☆未来』学力向上対策事業』の説明です。今度は赤色の表紙、資料 2 になります。表紙をめくって、2 ページを御覧ください。

先ほど学校図書館活用教育でも話題にあげました全国学力・学習状況調査結果にお

いて、国語は小中ともに全国平均値を上回るか同等の結果を得ております。しかし、算数・数学については、県はもちろん、松江市でも全国平均値を下回り、長年の課題となっております。

算数・数学に対する課題改善に向けた取組が急務であり、松江市では学力向上対策事業を平成 27 年度からスタートさせました。

3 ページを御覧ください。平成 27 年度に授業サポートとして、学力向上支援員 6 名を小学校 4 校、中学校 2 校に配置し、平成 30 年度には、授業を主で担当できる学力向上支援講師を 2 名配置しました。こちらについては、前回の総合教育会議で学力向上支援員と若年教員のための支援講師の紹介をさせていただきました。

今回の総合教育会議では、本日、大庭小学校の米津先生に公開していただきました少人数授業の充実を図るための学力向上支援講師の取組を中心に説明させていただきます。

4 ページを御覧ください。全国学力調査、中学校数学 B、発展問題で、平成 26 年度は全国と比べ 2.5 ポイント下回る結果でした。翌 27 年度に学力向上対策がスタートし、その後、その差は年々縮まり、基本問題の A 問題と発展問題の B 問題が統合され 1 つになった今年度、ついに市平均が全国平均値を上回る結果となりました。

昨年度、唯一少人数授業可能型の学力向上支援講師を配置した美保関小学校の状況を御覧いただきます。5 ページを御覧ください。こちらは美保関小の今年度の全国学力調査の児童意識調査結果です。

学力と相関関係があるといわれる調査項目になります。グラフは左から平成 30 年度の美保関小学校の結果。これがピンク色になります。隣の緑色は、今年度の美保関小学校の結果です。中央の赤色が松江市、オレンジが県、青が全国となります。

今年度の美保関小学校の結果ですが、昨年度の結果を全て上回り、中には全国値を上回っている項目もあります。

また、美保関小学校の子供たちの算数に対する意識調査結果が 6 ページ、7 ページにあります。こちらも全て、調査項目において昨年度を上回っていることが分かります。学力向上支援講師の取組ももちろんですが、支援講師配置が配置校の先生方の意識の変化につながり、学校全体で改善へと向かっていった結果です。

本日は、学力向上支援講師配置校から先生方にお越しいただいておりますので、このあと各校から取組等の紹介もしていただく予定です。

最後に、8 ページを御覧ください。松江市の子供たちのこれからの学力向上に向けて、学力向上対策事業、学校図書館活用教育が大きな支えとなり、これからも重要な役割を担っていきます。そのためには、今後も学力向上支援講師と学校司書の継続配置が必要不可欠です。

これらは先生方への授業支援となり、多忙といわれる先生方の業務の負担軽減につながり、ひいては子供たちとしっかり向き合う時間を生み出し、子供たちの成長を支えていくものと考えております。

以上で事務局からの説明を終わります。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

事務局から説明させていただきました。

本日の議題は、学校図書館の活用における図書館司書、それから学力向上対策の 2 つを予定していますが、そのうち学力向上支援講師の取組につきまして、他の学力向上支援講師配置校からも講師及び管理職の先生方に参加していただいています。

出席者の紹介につきましては、本日の次第の裏側に出席者名簿を載せておりますので、それに代えさせていただきたいと思いますが、各校の特徴的な取組につきましては、別紙資料 3 にまとめております。

その資料 3 を基に、各学校から簡潔に説明していただきたいと思います。その資料 3 に載っている大庭小、美保関小、竹矢小、意東小、湖南中の順番で、各学校管理職の先生、または学力向上支援講師の先生のどちらでも構いませんので、2 分程度で説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○（大庭小学校）梶田 校長

本校校長の梶田と申します。本日は大庭小学校にお越しいただきまして、大変ありがとうございます。

さて、学力向上支援講師を 1 名配置いただきまして、ありがとうございます。約 30 人の子供たちがいる学級で算数を教えたときに、やはり 30 人の中には、「先生、分からない」という子供も結構いますし、1 人の目では一人一人の子供を丁寧に見たり、分かりにくい子供に手立てをしていくということもなかなか難しい状況です。そういう点で、もう 1 人先生を配置いただき、2 人の教員の目で子供たちを見ていくという

ことで、丁寧な指導が可能となっております。

算数はなかなか難しいのだけれども、せめて算数を嫌いにならない子供を育成することについても、非常に効果が発揮できているのではないかと感じています。具体的には、お配りしている資料の通りでございます。本校では、学年の実態に応じて、1つの教室に教員が2人入る場合や、今日見ていただきましたように、別々の教室にそれぞれ教員が入って教えるといったような格好で、学年の子供たちの状況に応じて指導を工夫しております。

今日の6年生の例では、1つのコースは解き方を身に付けるということで、算数は学んだことをどんどん積み重ねていくことが特に重要な教科ですので、その基礎のところをしっかりと繰り返し練習等を通じて学ばせていくコースと、お互いの考えを出し合いながら、1つの、あるいはいろいろな解決方法を身に付けていくというような形の授業でございました。そういったところを工夫しております。

最後に、6年生は計算オリンピック等にも取り組んでおりますが、間違えた子供、解けなかった子供に対して、2人目の支援講師がいることで、その日のうちに間違えたことに対する手立てができる。担任は次の授業がありますので、すぐには手立てができかねるのですけれども、2人目がいることでそういったことも可能になっておりまして、大変ありがたく思っております。

以上でございます。

○（美保関小学校）松尾 校長

失礼します。美保関小学校校長の松尾と申します。支援講師を配置していただきまして、ありがとうございます。

本校の場合は、全校的に学力・学習面で配慮の必要な児童がかなりの割合でおります。そこで、やはり一人一人きめ細かく指導していくために、とりあえず時間割上は4年生以上の算数に入ってもらって、子供たちの実態に応じて形態を変えております。

4年生は最初から少人数、あるいは習熟度により、人数を少なくして指導しております。5年生の場合は、最初是一緒にやって、そのあと習熟度に分かれたりするという、単元によっていろいろ工夫して、子供たちの興味・関心を引くような指導をしております。

それだけではなく、今学期は、3年生にも少し理解に時間がかかる子がおりますの

で、教材を準備する時間を少しいただいて、3年生のところへも入っております。

2年生の算数と書いてありますが、これは担任が低学年の経験が少なく、1学期は算数の授業が上手にしにくいということで、1単元ほど吉田講師に模範授業のような形で、担任への指導も行ってもらいました。

それだけではなくて、今年度から全校でミニプリントを実施しております。そのミニプリントにつきましても、支援講師の吉田に作成してもらい、全校の様子を見ながら学力向上に取り組んでもらっています。ですから、正規の時間割だけでなく、全校に目を向けてもらって取り組んでもらっております。

以上です。

○（竹矢小学校）永井 校長

失礼します。竹矢小学校校長をしております永井と申します。今日、このように大庭小学校で授業を見せてもらう機会をいただきまして、ありがとうございました。

大庭小学校さんは、授業公開以外の学級も板書がとてもきちんとしていて、それから、図書館の「見つける」、「調べる」、「まとめる」、「話し合う」の掲示であったり、ホワイトボードをきちんと活用した図書館活用教育の総合的な学習の時間というのは、とても感心をしました。ありがとうございました。

竹矢小学校ですが、通常学級は各学年2クラスの学校です。そこにこうやって学力向上支援講師を配置していただきまして、大変ありがとうございます。

隣に座っております青木講師については、3年生と6年生両方の学級の算数全てに指導に入ってもらっているところです。いろいろな学級に出入りすると、なかなか子供との人間関係を築くことが難しいということで、3年6年というように学年を指定しています。それによって、資料3にも載せておりますように、授業以外のところでも子供が指導を求めてきたり、授業中に子供が進んで手を挙げて「教えてください」というような支援を求めてきたりするようになってきているところです。

また、青木講師は、以前教諭のときに算数の指定校で勤務されていた経験もございましたので、今のTTをするにあたって、担任と立場を逆にして、主となって学級を指導したり、あるいは学力向上で寺子屋というような形の補充学習をしているのですけれども、その際のプリントの問題を作成していただいたりしています。

竹矢小学校の6年生についていうと、先般の国の学力調査結果で見ますと、かなり

低位層のグループと、それから平均を少々上回ったところのグループ、大きく分けて二極化傾向が強い状況にあります。この低位層のところ、大庭小学校の今日の授業と似ているところがあるのですけれども、説明や学習の内容が分かりにくいというよりは、そのときは分かっているのだけれども、すぐに忘れてしまうというか、なかなか定着しない。ですので、授業時間には分かっているけれども、国の学力調査が行われる時にはもう忘れていたというような状況が多いために、単元によっては、通常の指導で教科書の問題を次々と進めていくグループと、同じような問題を繰り返して、習熟を図るために繰り返し行うグループとに分けて、その一方を青木講師に担当して指導してもらっているというような状況もございます。

こうしたことによって、次第に子供の自己肯定感というか、分かった感というのは高まっているかなというように感じているところです。

以上です。

○（意東小学校）立石 学力向上支援講師

失礼します。意東小学校学力向上支援講師の立石と申します。基礎・基本の定着を図り、主体的に学習しようとする子供を育てることを願って指導にあたっております。

そのための取組としましては、教材研究をする際に、その学年までの学び、系統的な視点でどのようにそれが積みあがっているかということを中心に教材研究をして、そのことを伝えられるようにと心掛けております。

また、人数が多いほうの学級なので、学力差に応じるために少人数授業を実施しております。あと、先ほども出ましたが、ノートやプリントは速やかにチェックをして定着度を把握し、まだ記憶が新しいうちに指導をやり直したり、弱点を補強するようにしております。

また、単元の導入に際しましては、算数ソフトなどを適宜使用して、興味を持たせたり、学習の見通しを持てるような工夫をしながら指導にあたっております。

先生方がとても多忙で、私も教員を長くしておりましたが、猫の手を借りたいほど忙しい現場ですので、少しでも担任の先生方の負担軽減になれば良いなということを日々考えながらやっております。

○（意東小学校）安達 教諭

教務主任の安達と申します。3点ほど付け加えさせていただきます。

まず、立石講師には、その日のうちに採点をして、子供に合わせたプリントを用意していただいていることで、担任だけでは準備できないところを非常に補っていただいております。

それから、少人数指導で、一人一人のつまずきに応じた個別の細かな指導ができることで、授業の中でより多くの子が発言することができ、子供たちが少人数の授業を非常に楽しみにしている様子が見られます。

3点目ですが、一斉で行う授業をすることもありますが、一緒にいる若手教員や中堅教員が立石講師のようなベテランの先生の授業を見ることで、それが教員にとっても非常に勉強になっているということがあります。

以上、付け加えさせていただきます。

○（湖南中学校）原 校長

失礼します。湖南中学校校長の原でございます。よろしくお願いいたします。

日曜日まで部活動の新人大会があり、学校として熱が入っていたところ、今日、新人大会が終わり、いよいよ授業づくりの視点で職員会を開き学力向上に努めていくタイミングで、本日、大庭小学校にお邪魔して授業を見させていただいて、大変参考になりました。ありがとうございました。

本校では、県や松江市の傾向と同じく、国語では比較的高い学力を有する生徒が多い実態の中で、数学に関しては、どうしても国語ほどの力を伸ばせない実態があるところではあります。

併せて、学校評価、あるいは授業参観等の保護者アンケートの中で、「学校として、学力・その他の中低位層へのテコ入れの姿は分かるけれども、中上位層への対応が足りていないのではないか」という声が多く聞かれたところではあります。

そういう意味で、今年度、奥村学力向上支援講師を任用いただいて、発展コース、それから基礎コースと分かれて、習熟度別の学習展開ができることは、学校としても、それから生徒・保護者にとっても、非常に心強いところではあります。

併せて、先ほどから話に出ておりますが、奥村支援講師の学習指導について、本校の若手教員にとっては大いに参考となるところではあります。そして、放課後の補充学習についても、多くの示唆をいただいているところではあります。

部活動を引退し、受験を目の前にした3年生の数学で、奥村支援講師の力をいただいているところ、先ほど「授業づくりの職員会を開催する」と言っておりましたが、数学の授業を全教員で見る機会を得るなど、学校として、支援講師の配置を追い風に授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

ありがとうございました。

それでは、引き続き質疑応答並びに意見交換に移らせていただきます。

先ほどの各教室や図書館の視察、また、事務局や各学校からの説明等を踏まえまして、どなたからでも構いませんので、御質問や御意見などがございましたらお願いいたします。

○松浦市長

今日はこのような時間を取っていただきまして、誠にありがとうございました。

学力向上支援講師と支援員が両方いるという話ですが、それは今、どういう形で組み合わせをしておられるのですか。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

学力向上支援員は、嘱託職員という形で、週当たり29時間、1年間通して勤務となっております。

今年度は5名を6校に配置しています。1名については、今までは小規模校には配置をしなかったのですが、今年度については、曜日を決めた上で、小規模校2校に1名を配置し、授業に入らせていただいております。

学力向上支援講師については、週当たり20時間の勤務となっております。年間、学校での活動はおよそ35週ということですが、支援講師については34週となります。嘱託ではなくパートという形で、時間勤務にて配置しております。

○松浦市長

組み合わせとか、どういうところに配置するかというのは、どこで誰が決めているのですか。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

前年度に配置校を検討するのですが、まず、学校からの希望を取り、学校として支援員・支援講師の配置を希望するところをまず第一に考えております。

大変たくさんの学校から希望を受けておりました、昨年度まではどうしても6校しか配置ができなかったのですが、今年度は12名の支援員・支援講師を配置いただきまして、その分配置できる学校は増えたのですが、一応検討材料としましては、前年度の学力調査の結果等も検討しながら、どこの学校に支援が必要なのかというところを考慮して配置校を決めております。

○松浦市長

そうすると、これは松江市の単独の予算でお願いしているものなのですね。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

そうなります。

○松浦市長

それから、先ほどの支援員と支援講師というのは、大体同じような授業を受け持つ形になるのですか。特に区別はしていないのですか。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

基本的には教員の資格を持っている先生方に入っておりますが、支援員は基本的に授業のサポートのほうに入っております。

それから、支援講師は主として授業ができる、もちろん評価のほうもしていただきます。そういった形で入っております。

○松浦市長

それから、先ほどの話ですと、支援講師は数学や算数を教えるということになっておりますが、支援員の場合もそうなのですか。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

やはり算数・数学に入っていただくことが非常に多いですが、支援員につきましては、嘱託という形で1年間勤務しておりますので、他の教科や放課後の学習会、そして長期休業の間の学習会等にも関わっていただいております。

○松浦市長

今、各学校での支援講師の取組についてお聞きしましたが、どのような形で授業に参加してもらうか、どの学年に入るかなどは、それぞれの学校で決めるという話になるわけですか。

○（事務局）学校教育課 川上 指導研修係長

はい、そうなります。

○松浦市長

支援講師の先生方で、やっていて非常に反応を感じるというか、やりがいを感じるというか、そういうのがあるのかどうか。その辺りについて、本音で結構ですので少し教えてもらいたいと思います。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

それでは、大庭小学校からお願いします。

○（大庭小学校）米津 学力向上支援講師

今日はありがとうございました。

私は、退職後1年間は再任用で津田小学校にそのまま勤務しておりまして、去年は子供と親の相談員で、今年支援講師になりました。

初めて算数だけに向き合って授業をしたのですがけれども、算数というのは難しいということを感じました。

それから、ずっと担任でしたので、ほかのクラスに行って算数の授業をすることがなかったため、そういう先生方に今まで当たり前のようにお願いしていたのですが、とても大変だなということを感じました。

今、2学期になりまして、1学期間ずっと子供たちと過ごして、ようやく子供たちの特質が分かりまして、「この子にはこういうときに付いてあげたら良いな」とか、声のかけ方もだいぶ分かるようになりました。もし自分が担任だったら、やはり2人いるととても助かるなという思いを持ちながらやっています。ただ、私自身の力がまだ足りませんので、教材研究やプリント作成など、子供たちがもっと伸びていくようなことを考えなければいけないなと思いながら日々過ごしています。

特に大庭小学校の子供たちは、力はあるのですが、積み重ねという点で、なぜか積み重ならないというところがあり、その辺りを担任の先生方と日々話し合っております。役に立っていれば良いなと思いながら仕事をしております。

以上です。

○（美保関小学校）吉田 学力向上支援講師

失礼します。反応とかやりがいということでしたが、やはり子供たちの「できた」とか「分かった」という反応を身近に感じることができるというのが私自身の喜びでもありますし、その子供たちの反応、「できた」という言葉は、本当に子供たちの次の意欲につながっていくものだと思います。そういう声がすごく感じられるということが一番のやりがいでもあるなと思います。

あとは、やはり算数が少し苦手という意識を持っている子供たちは、担任と私と2人並んで、「どちらの先生に聞いても良いよ」という場面で、「少し苦手だな」という子供たちは、割と私のほうにやってきます。やはり「担任には聞きにくいな」「見せたくないな」という自分の弱い部分も、私に対してなら「少し甘えられるかな」というような、そういう一面も感じられることがあるのが実情です。

以上です。

○（竹矢小学校）青木 学力向上支援講師

私は、今年から初めて支援講師をやらせてもらっています。昨年までは教員としてやっておりました。

今回、最初は3年・6年のT2という形で入っていましたが、2学期からは6年生の単元に応じて、少人数指導の中のT1をやっています。

1学期に感じたことは、やはり子供は「分かりたいな」という気持ちでいることで

す。ですから、授業中でも分からないことは、先ほど言われたように、進めているほうよりも、分かりにくい子はこちらのほうに「どういうことだったのか、少し教えて」というような形で求めてきます。

2学期も1ヵ月ほど過ぎましたが、子供たちの中で分かりにくい子というのは、やはり継続というのですか、毎日毎日コツコツやっていくことがやや苦手かなと思います。

それからもう1つ、6年生は、3年生や4年生で習ったことへの理解が低いようで、そういう子に対して計算などのプリントを「あなたは苦手なようだから、少しやってみないか」ということを言ったら、「いや、いいです」という子もいますが、「やりたい」という子もいますので、できるだけそういった子に「こうしたほうがもっと良いのではないか」というアドバイスをすることによって、求めてくる問題をつくってやることをしています。そうしたときに、「だいぶできるようになったよ」というような言葉を聞いたときは、指導しているほうのやりがいを感じます。

ただ、なかなか継続して指導というのが勤務上難しいところがあり、せっかく求めているのだけれども、「次は関わることができない」ということがあって、そのところを何かできないかなと思っているところです。

以上です。

○（意東小学校）立石 学力向上支援講師

私は意東小学校で退職し、私にとって幸せなことに、そのまま学力向上支援講師として勤めさせていただきました。

やはり担任をしているときは、分かっているのだけれども、人数も多くて見切り発車で、次にどんどん進まなくてはいけないというジレンマを抱えながら、忙しい思いでやっておりました。やはり、算数だけにじっくり複数の人数で子供たちに関われるということで、1人でやっていたときに比べて、子供も納得して進んでいるのではないかなということを実感しております。

たまにですけれども、「先生にやってもらって助かるわ」というように若い先生が言われるところが耳に入ってくると、「お役に立てているのだな」ということが分かり、少しでもお役に立てる立場になるようにと日々心掛けてやっているところです。

やはり担任をしておりますと、全部の教科を教材研究していく必要があり、なかなか

か算数だけ深くということができないので、こうやって算数を中心にやっていると、今まで気付かなかったことに気付くことができ、日々私も学びながら過ごしているところです。

○（湖南中学校）奥村 学力向上支援講師

湖南中学校は3学年が5クラスあります。私一人で全クラスの習熟度学習の実施はできません。私が多くの数学の先生方を巻き込んで、5クラス全部、どの単元でも習熟度学習が取り入れられるようにコーディネートしています。

喜びとしては、 $-2-3$ の計算でつまずいている生徒が、 $-2x-3x$ の計算ができ、さらに $-2\sqrt{2}-3\sqrt{2}$ もできるようになり、笑顔を見せてくれるとき喜びを感じます。

また本当に難しい問題を「1週間以上かけてもいいから」と宿題に出したとき、しばらくして面白い解答に出合ったときに「もっと鍛えてやりたいなあ」と意欲を感じます。

それから発展コースではいろいろなものを準備するのですが、数学の先生方にそれを見せて驚いてもらったときにも喜びを感じております。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

教育委員の皆さんからはいかがですか。

○清水教育長

皆さん、ご苦労様でした。今日、授業を見せていただきました。私からは、気がかかったといいますか、そのことを少しお話させていただきたいと思います。

今日は小学校の習熟度という形でやっていただいたということで、実は3年前にも習熟度という授業形態で、橋北の小学校で見せていただきました。

今日の授業の内容、組み合わせといいますか、何通りあるかというような授業の内容でしたけれども、基礎コースと少し進んでいるコースと、やっている内容がほとんど変わっていないのではないかなど。そういう意味で、実は3年前に私が経験した習熟度別授業も、全く同じでした。同じ単元でやっているのですけれども、「中身的にどこがどう違うのだろうか」と思っていました。

私の基本的な考え方は、小学校と中学校で多少違うことはあるかもしれませんが、

中学校ではこうして基礎コースを繰り返しやっていくという考え方。それから、発展のほうは単元の巻末の問題を多くやっていって、いろいろなパターンの問題をやっていくという、それが基本的な在り方だろうと思っています。同じ単元の内容で、今日は別クラスで分かれてやっていましたよね。そういった授業の在り方は、その形のままで良いのか、小学校でも少し検討してもらえないだろうかと思っています。

というのは、保護者の皆さんからすると、下の子を手厚く見るのはもちろん良いわけですが、でも、上の子を伸ばしていくというのも、これも私は大切なことだろうと思っています。以前に保護者の皆さんにアンケートをとったのですが、習熟度は7割以上の方が賛成でした。ですから、学校もひるむことなく、それをやっていただきたいと思っています。ただ、必ずしも今の小学校でおやりになっているやり方が良いのかどうかと。各小学校、学力担当が集まっていたら、そのやり方といいますか、実施の方法、授業の内容はどうするのかということを少し検討してもらいたい。そうすれば、また子供たちもかなり伸びてくるのではないかというように私は思っています。

私からは要望を少しお話させていただきました。

○多々納委員

失礼いたします。教育委員の多々納でございます。今日は授業を見せていただき、また、先生方から直接お話を伺うことができ、大変ありがとうございました。

授業を拝見していますと、今、教育長さんのおっしゃったことは私も同感するところがございまして、授業の進め方等を少し工夫していただきたいなと思いました。

子供たちの実態を見ていますと、非常に多様化していると感じます。人数は、大庭小学校ですと最大30人を10人と20人程度に分けるということで、そんなに多いクラスではないのですが、子供たち一人一人の取組を見ると非常にまちまちです。1人の先生が、少人数であっても全員を見るというのは、少し難しいのかなと思った次第でございます。学力向上支援講師を配置する必要があることを感じました。

また、先生方の指導力につきましても、皆さんベテランの先生でいらっしやって、定年退職なさったというお話がありましたが、とてもお若いので、まだまだ松江市の子供たちの教育のために活躍いただきたいなという思いを一層持ったところでございます。

子供たちと若い先生方の指導力アップにもつながっているというお話でございましたので、是非御活躍いただきたいなと思うこと。それから、学力向上支援講師の配置が松江市単独の予算ということで、もっと増やすというのは厳しい面があるかもしれませんが、先ほどお話を伺いました美保関小学校の詳しいデータですと、学力も子供たちの取組や意欲にも非常に良い効果をもたらされるということが分かりましたので、やはり各学校で希望される場所には、是非1人でも2人でも配置していただくようお願いしたいなということを感じたところです。

以上です。

○伊藤委員

失礼いたします。小学校の教員を現職のときに勤め終えまして、今は第二の職に就いております教育委員の伊藤でございます。

教育委員の中で教員籍というのは私1人ですので、いろいろと実際見せていただいたところで、感想を述べさせていただいております。

まず、個を大切にされた対応をしていただいていると、それぞれの各学校の支援講師の皆さんのお話と、先ほどから校長先生のお話もありました。大変ありがたいなと思っています。

分からなくて困っている子供が「分かりたい」と願っていると思います。その児童生徒の学習状況の実態把握をしっかりしていただいて、今日の授業もそうですが、この資料3にあるようにミニプリントをつくるとか、奥村支援講師さんからあったような発展的な課題を与えるとか、こういう対応をしていただくことが子供たちの意欲につながり、それからその姿を見ている若い先生方の参考にもなるのかなと思っておりました。ありがとうございました。

もう1点。清水教育長さんがおっしゃったのですが、算数に限らず、単元構想というのを立てますよね。ですから、例えば今日の授業の単元が5時間という想定で、同じリズムであたると、最後の発展的なコースは教科書にある発展的な問題に取り組んでみましょうということまでいかないですよね。

ですから、私立の高校の受験ではないのですが、単元が5時間であれば、どこかスピードアップして、「ここは飛ばそう」というところも思い切って4時間でやって、あとの1時間は発展的な学習にしっかりと取り組む。数リンピックの問題を見せていた

だきますと、解けませんでした。そういうものにチャレンジするような単元の構想、それから時間配分をしていただくと、教育長の持たれたような疑問も、「最後の5時間目で勝負しよう」というところが見えると違ってくると思いますので、検討いただけたらと思います。ありがとうございました。

○藤原委員

教育委員を務めさせていただいております藤原と申します。私は現在、子育てをしている保護者ということで選任いただいております。今日はいろいろな授業を見せていただき、また、詳しくお話を聞かせていただきましてありがとうございました。

先生方のお話を伺っていても、それから、美保関小学校のグラフを拝見しております、講師の先生方に指導していただいたおかげで、算数に対してとても興味を持ち、大変前向きになってきていることが感じられます。

子供たちの理解できる喜びや、考えることを楽しいと感じられている、そんな気持ちの現れではないかなと思いました。

資料3の竹矢小学校のところで、「理解に時間がかかる児童が、休み時間、指導や問題を求めるようになってきた」という成果などを拝見しております、理解に時間のかかるお子さんに対して質問しやすい環境が整っているということで、「自分が受け入れられているんだ」、「質問しても良いんだ」というような安心感を持って学習に取り組むことができるようになり、分かるまで自分が努力できたことや、理解ができたという達成感を感じることで自己肯定感も高まり、こういったグラフの結果になっているのではないかなと思いました。

今は基礎的な取組をしておられるお子さんたちも、この気持ちが、より発展的な取組にもつながると思いましたが、それから今、先生方から伺ったワクワクした気持ちとといいますか、やりがいや意欲が子供たちに伝わることで、より発展的な学習につながっていくというように感じました。今日はありがとうございました。

○(事務局) 三賀森 学校教育課長

ありがとうございました。

授業について、教育長や多々納委員、伊藤委員からも意見をお聞きしましたが、今日の単元は導入の部分で、その後の進み方によって、伊藤委員がおっしゃったように、

進度の早いほうのクラスはどんどん問題や取組が進んでいくのではないかなと個人的には思ったのですけれども、米津先生、その辺りはどのような計画がありましたか。

○（大庭小学校）米津 学力向上支援講師

そこまで計画はないのですけれども、実はうちの6年生ですが、習熟度別ではありません。希望を取っておりまして、問題を話し合っただけで解いていくコースと、いろいろな問題というか、どんどんやって解き方を覚えるというコースに分かれております。6年3組で実施した授業が、解き方をいろいろやって覚えていくやり方で、私のほうが子供たちで話し合っただけで解いていくやり方です。一応、今日はチャレンジまで、5分延長しましたが最後まで進みました。

それと、先生方と話し合う時間が十分に取れず、一応私のほうでいろいろなものを用意して、「先生、これを使ってやってください。私はこれでやります」と、自分の今日のねらいや進め方も書いてお渡ししています。

ただ、6年3組のほうはどんどん解いていくやり方ですし、担任の先生のお考えもあろうかと思えます。6年生の先生方が、どちらかというとなんか上位層と下位層とか、そのように分けるやり方はあまり好まなく、やはり子供の希望に沿ってやっていったほうが良いのではないかとということで、今やっています。

子供たちによっては、途中でコースを変える場合があります。「僕はここが合わないから、こっちへ行く」と。それも子供たちの意思があって大事なのではないかなと思っています。1学期にも少人数授業をやったのですが、今、そういうことをやりかけている途中でございます。先ほど御指摘いただきました「クラスによってやり方が違うほうが良いのではないか」という御意見については、確かにそうであると思うので、もう少し大庭小学校としても、しっかりと進め方や取組方法、それから現在はどのように分けているのですけれども、このやり方で良いのかどうかも含めて検討していきたいなと思っています。ありがとうございました。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

ありがとうございました。

時間がおしていただきありがとうございます。2時間目が終わったとき、私は図書館にいたのですけれども、入口では子供たちがかばんを持って、何人も待っていました。途

中、階段を上ってくる子にも出会いました。授業を見たときにも、すごく整理されている図書館で、子供たちが活用している様子が分かりました。

今日、せっかく司書教諭の水凌先生、学校図書館司書の門脇先生がいらっしゃいます。短い時間しかないのですけれども、大庭小学校の子供たちの図書館活用の様子とか、司書の様子とか、一言ずつお声を聞かせていただければと思います。お願いします。

○（大庭小学校）水凌 教諭

本日はありがとうございました。

本校に赴任して3年目ですけれども、来た年も3年生を受け持っておりましたが、ノートに字を書くこともなかなかやろうとしない、少し書くと面倒になるというような状況で、読んだり書いたりということの以前に、なかなかやる気になれないというような子供が多いと感じておりました。

去年は専科教員という立場で、算数の授業や図書館活用教育に関わらせていただき、いろいろなクラスに入ることができました。そうすると、子供たちはできないわけではなく、やはり学級によって、やることが学年で統一されていないような部分もあったりして、同じ学年の子が同じ経験をして同じスキルを身に付けていくということが少し足りないのではないかなということを感じました。

それで、去年からは少しずつですけれども、どの子も「やりきった」、「自分もできた」というような思いが持てるように、ほかの学級の授業にも出るなど少しずつ関わって、今、同じ経験ができるようなことを積み重ねてきているところです。

今日も少し授業を見ていただいたのですけれども、学校司書の門脇先生なしでは成立しない授業です。たくさんの資料を用意していただいて、子供たちが迷わないように付箋で見出しも付けていただいて、そこまでのことは担任をしながら準備することはなかなかできません。

それから、先ほど「たくさんの子供たちが階段を上って本を借りに来る」というお話をしていただきました。以前、司書の先生がおられない時代に図書館の仕事をしていたこともありますが、受入れから何から全部を担当を持ちながらやると、せっかく新しい本を入れても子供たちの前に出すことが遅くなったり、呼びかけもなかなかできなかつたりということがあります。ましてや図書館の整理まで、今は子供たちに分

かりやすい表示をしていただいておりますけれども、担任をしながらではそのようなところまでなかなか手が回りませんので、子供たちがあのように活発に本を読んだり、勉強に向かったりするというのは、学校司書の門脇先生の力なしでは成立しないことです。今日の授業で門脇先生にお力をいただいたことは、とても感謝しております。私のほうからは以上です。

○（大庭小学校）門脇 学校図書館司書

失礼します。学校司書の門脇です。

私は以前、学校に入るまでは地域の公民館の図書室におりました。地域の方々と接する中で、よくお母さんが小さな子供さんを連れて図書館にいらっしゃる。そして、本好きの子供に育てたいということで、一生懸命読み聞かせをされていました。「毎日毎日読み聞かせをしています」、「本が好きな子になってほしいです」という願いをいつも語られていました。

本を読むということが何をもちたすのかということをお母さんたちははっきりと明確には分からなかったかもしれませんが、本を読むことは良いことだと信じて、子供たちにずっと読み聞かせを続けておられました。私もそう思っていました。

ところが、学校に入ってみて、学校図書館の現場を知ると、一人一人の子供たちに対する本の手立てと申しますか、それが先生たちの毎日の目まぐるしい状況の中で、十分に行き届かないということを目の当たりにしました。そして、やはり地域の皆さんの願い、親御さんの願い、「本好きな子供になってほしい」、「お勉強を好きになってほしい」、「できるようにしてほしい」、そういう願いを分かりながらも、なかなか学習面での指導に精一杯。その学習面も、単元を追いかけることに精一杯。

学んでいることの背景を知ったり、世の中・社会の現実を子供たちに分かりやすく伝えたりという時間がなかなか取れない。子供たちも、情報は溢れていますから、テレビやニュースやインターネットの情報にいろいろ触れています。けれども、子供が子供らしく社会の現実に向き合ったり、それを自分の中に納得いくように取り入れたるには、やはり本というものはとても良いツールなのです。そういうものを活用しながら、子供たちが自己を見直したり、考え方を組み立てたり、言葉を知ったり、本で読んだことで友達と意見を磨きあって自分を高めていったり、倫理観を高めたり、そういう学びに向かう基礎の部分が大いに成長させるのが図書館だと思っています。

そこにやはり人がいるということがなければ、そのことはできないと思います。

今日、松江市立大庭小学校「学びに向かう力を育む学校図書館活用教育～担任・司書教諭・学校司書の連携を通して～」という資料をお作りしました。この5年間で子供たちの何が変わっていったのかということ、数値では見えない力を学校図書館は育むと思いますけれども、ただ、目に見える成果としても、これだけのことが伸びてきています。

少し前までは図書館に足を運ぶという子供も決まった子供たちでした。本好きの子供たちだけが来るというような状況でしたけれども、やはり学校全体として取り組んで、学校で全部の子供たちに学びを保障していく。そして、「面倒くさい」とか「何で本なんか読まないといけないの」と言っていた子供たちに先生方が声をかけ、「学校全体で取り組んでいるんだよ」、「大庭小だけじゃないよ。竹矢小も一緒になって、今度中学校に上がる時には、みんなが『この本読んだ』って言えるようにして上がろうね」というようにして、小中の連携、あるいは小学校間の連携も取りながらやっていくということも取り組んでいます。

小中連携ということで、先ほど支援センターについて説明していただきましたけれども、松江市の支援センターは全国屈指の支援センターで、私たちへの支援も、とても行き届いた支援をしていただいております。その一つとして、小中9年間を見通した学び方指導体系表というものをつくっていただいております。それを先生方にお示しすることで、「みんなで取り組んでいくことなんだ」、「どの子にもこのスキルを保障していきましょう」ということが明文化されております。

それを松江市は長年続けて取り組んでいますけれども、この成果は高校で現れています。高校の先生たちが、「やはりそれを通過してきた子供たちというのは、自分からやろうとする力がある」、「何でも『自分がやります』、『僕がやります』、『任せてください』と言って、自信を持ってやってくれています」というように評価をしていただいております。

今すぐに成果は出ないかもしれませんが、高校ぐらいになったときには、きちんと力になる。それを信じて、小学校のときから積み重ねを確実にしていこうというように取り組んでいます。

今ごろでは、子供たちが「最近の図書館、超ハンパねえわ」と言って喜んでくれてありますし、調べ学習をするときも、以前は嫌がっている子供たちの姿もありましたけ

れども、「面白すぎて興奮するわ」というようなことを言う子供たちもいたりして、学びに向かう力も少しずつ育ってきていると思います。それが今の喜びで、先生方のお力になればと思って取り組んでいるところです。ありがとうございました。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

ありがとうございました。

予定していた時間を過ぎてしまいました。もう少しいろいろな意見をお聞きしたいところですが、これもちままして意見交換を終わりたいと思います。

本日のテーマにつきまして、最後に大谷副教育長からまとめをさせていただきます。

○（事務局）大谷 副教育長

失礼いたします。本日はお忙しい中、令和元年度第1回松江市総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

本日は、松江市PTA連合会会長様、大庭小学校PTAの役員の皆様、湖東中学校校区であります湖東かなび学園の地域推進協議会の皆様にも参観・傍聴をしていただいたところでございます。

さて、本日は松江市が学力育成に向け取り組んでおります2つの取組を実際に見ていただき、協議を行っていただきました。1つは、学力向上支援講師等の配置による子供の実態、ニーズに応じたきめ細かい学習指導。もう1つは、情報活用能力を高める図書館活用教育についてでございます。

本日、授業を公開しました大庭小の取組は、松江市が目指す学力育成に向けた具体的な取組状況でございます。

算数においては、基礎繰り返し型、発展対話型のクラス編成とし、子供一人一人の実態・ニーズに応じたきめ細かい指導を行っているところでございます。一人一人の子供たちに確かな学力を保障するとともに、生涯を通じて学び続ける学習意欲を育てることが重要であるというように考えております。「分かった」という喜び、「もっと学びたい」という意欲を育てたいというように思っております。本日、指導を受けている大庭小の子供たちも、きっとそのように育っていることと思います。

また、学校図書館活用教育につきましては、先ほどから何度もありますように、松江市は全国でも先進的な取組を実施しているところでございます。担当から説明しま

したように、基礎・基本を踏まえた、より質の高い情報活用能力を育成する教育でございまして、大庭小学校も含め、市内全小中学校で司書教諭、学校司書等と連携し、その力の育成を図っているところでございます。

冒頭の市長の話にもありましたように、何を学び、どのように生きていくのかというところまで、是非迫っていきたいと考えているところでございます。

3年生の授業が終わったときに、私が見ていた2人の女子児童に、「今日みたいな図書館での授業はどう？」と聞いてみたのですけれども、2人とも目をキラキラ輝かせながら、「とても楽しいです」というように、はっきりと言ってくれました。とても嬉しく思ったところでございます。

本日の協議でいただきましたたくさんの貴重な御意見等を、今後の施策に是非生かしてまいりたいというように考えております。

最後になりましたけれども、本日、会場を提供していただき、準備・運営に尽力していただきました校長先生はじめ先生方に、そして今日、算数・総合的な学習の時間の授業で、目を輝かせて活躍してくれた子供たちに、心から御礼を申し上げたいと思っております。本当にありがとうございました。

以上、簡単ではございますが、本日のまとめとさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

○（事務局）三賀森 学校教育課長

それでは、本日予定しておりました議事を全て終了しました。松浦市長、それから教育委員の皆様、貴重な意見をいただきまして、ありがとうございました。また、今日参加していただきました各学校の先生方、ありがとうございました。

これからの時代を生きていく子供たちのために、みんなで一生懸命支えていきたいと思っております。これからもよろしくお願ひします。

今日はお疲れ様でした。お気を付けてお帰りください。